

# 令和4年度 江戸川区立第五葛西小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

<b>学校教育目標</b>	(1)深く考える子(思考力・判断力・表現力豊かで未知の状況にも対応できる子) (2)仲よく助け合う子(実際の社会や生活で、人とのかかわりを大切にする子) (3)すすんでやりぬく子(学んだことを人生や社会に生かそうとする子) (4)体をじょうぶにする子(心身ともに健康でたくましい子)	<b>目指す学校像</b> <b>目指す児童像</b> <b>目指す教師像</b>	○児童一人一人を大切に、豊かな心を育む学校 ○確かな学力の定着を保證する学校 ○教員同士が学び合い、支え合い、高め合う学校 ○家庭、地域と協働して教育活動にあたる学校 ○心豊かで優しい子 ○身体も頭もきたえる子 ○最後まであきらめずに取り組む子 ○いつも笑顔で絶やさぬ子 ○児童一人一人を大切に、使命感をもって教育にあたる教師 ○互いに学び合い、支え合い、高め合う教師 ○児童、保護者、地域から信頼される教師
<b>前年度までの学校経営上の成果と課題</b>	<成果>プログラミング教育をテーマ校内研究を進めたことで、情報機器を効果的に活用した授業を実施でき、児童が楽しみながら学べる授業の実践力が向上した。 <課題>教員の資質・能力の向上を図り、GIGAスクール構想の実現に向けて教育ICT環境を整え、学習活動の一層の充実を目指す。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・「確かな学力向上推進プラン」の実施 ・「各教科等の連携教育プログラム」の改善・実施 ・小学校教科担任制の導入 ・東京ベーシックドリルの活用 ・算教科における習熟度別少人数指導 ・外部指導員と連携した放課後の補習	学年末テストにおける到達度80%以上の児童の割合+0.5% 教科担任による授業の実施…週1回 「eライブラリアドバンス江戸っ子studyweek!」の実施…学期1回 放課後の補習(年35回)	A	B	・教科担任による週1回の指導が行われている。 ・算数の習熟度別少人数指導が適切に行われ、支援が必要な児童に対して指導が行うことができている。 ・外部講師による放課後の補習についても計画的に進めることができ、学力の向上が見られた。	A	確かな学力の向上に向け、目標に対しては意欲的に取り組んでいるのではないかと感じる。さらに2学期・3学期において目標の到達度アップに向け、取り組んでいただきたいと思います。	・引き続き教科担任による指導を行うとともに、中学校進学へ向けて6年生でも充実した内容で行えるように進めていく。 ・補習対象者の決定や低学年の補習については検討の必要がある。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実 ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・運動遊び「パワフルチューズデー」の実施	「パワフルチューズデー」…年20回	A	B	・パワフルチューズデーを計画通りに進めることができている。 ・クラス全体で取り組めるので、運動が苦手な児童も、体を動かす機会となっている。	B	運動遊び「パワフルチューズデー」の年20回と休み時間の活用をし、体力の向上をしていただきたく思っている。運動会でも、各学年頑張っている様子が見られた。	・体育の授業でも、発達段階に応じた運動量を考えながら、児童の体力向上を図っていく。 ・休み時間にも意識的にクラス遊びを取り入れていく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・読書月間 ・保護者ボランティアによる読み語り、図書館整備	読書月間…年3回 保護者ボランティアによる読み語り…年12回	A	A	・読書月間、読み語り等、順調に行うことができている。 ・読書月間には休み時間でも図書室を解放したことで、読書をする児童が増えた。 ・朝読書により、十分な読書時間を確保できている。	A	図書館整備などのボランティアや読み語りの充実をさらにお願ひしたい。	・読み語り用の本の整理整頓など、環境面を整えている。 ・読書月間以外でも、休み時間の図書室開放を検討していく。 ・読書科の授業内容の充実を図る。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・ALT講師との連携した授業の実施	中学年以上の学年でのALT講師の授業…年35回	B	B	・3年生以上の学年はALT講師の授業を計画的に進めることができている。 ・ALTと担任との打ち合わせをする時間の確保が難しいという課題がある。	B	ALT講師との連携した授業の実施等、引き続き取り組んでほしい。	・よりよい指導ができるよう、ALT講師との打ち合わせの時間を確保していく。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援研修会の開催 ・エンカレッジルームの活用 ・教室環境の整備、教材・教具の工夫 ・特別支援夕会での情報交換(月1回)	特別支援研修会…年3回 特別支援夕会…年10回	B	B	・生活指導夕会での情報共有により、補教のときもスムーズに対応することができた。 ・生活指導夕会と兼ねて行うなど回数を確保し、特別支援についての情報を共有することができている。	A	特別支援研修会等、共生社会の実現に向けた教育の推進に向けて、引き続き取り組んでほしい。	・やむを得ず登校できない児童の対応について、学年や他の教員と連携しながら改善していく。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組 ・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・いじめ防止に向けた取組 ・Q-Uの活用(家庭との連携) ・生活指導連絡協議会での情報交換 ・特別支援研修会の開催 ・エンカレッジルームの活用 ・教室環境の整備、教材・教具の工夫 ・特別支援夕会での情報交換(月1回)	いじめ防止週間…年3回 Q-Uの実施と分析…年1回 生活指導夕会…年30回 特別支援研修会…年3回 特別支援夕会…年10回	B	B	・アンケートを通して、支援が必要な児童の悩みを聞き、指導に当たることができた。 ・Q-Uの結果を用いて、指導に生かすことができている。 ・個別に話を聞く時間を十分に取れると、なお良い。 ・教員数の不足により、エンカレッジルーム担当の時間に補教に入ることも多々あった。	A	生活指導夕会(30回)、特別支援夕会(10回)など、着実に取り組んでいると感じる。子供たちの健全育成に向けた取組を引き続きお願ひしたい。	・引き続きアンケートの結果を指導に生かしていく。 ・アンケートの機会に以外にも、定期的に支援が必要な児童と話す機会を作っていく。 ・エンカレッジルームの活用のために、担当教員を柔軟に配置できるような枠組みを考えていく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・評価項目を整理し、学校評価の効率化、適正化を図る。	重点目標、取組、指標等の周知…5月まで 中間評価の周知…9月まで 外部アンケート等の実施…2月まで 最終評価の公表…3月	A	A	・学校関係者評価については適切な時期に実施することができている。	A	学校情報等も適切に発信していると思う。昨年度同様、今年度も着実に実行されている。教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善にぜひ、役立ててほしい。	・次年度の教育計画に反映できるよう、教職員と共有、周知する。
	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・外部講師・校内講師によるICT研修機器の使用方法について	ICT研修…年3回 学校訪問…月4回	A	B	・外部講師(ラインズ)による専門性のある内容で研修を行うことができた。また、学んだことを実践し日々の指導に生かすことができている。	B	学習用タブレットを利用して情報を発信されていると思う。外部講師・校内講師によるICT研修も活用し、さらに進めていってほしい。	・タブレットを活用した指導など、学校全体で共有できる機会を作っていく。
	OJT研修	・校内講師による研修(夏季休業中)	・校内の講師による各教科・領域、生活指導や保護者対応についての研修	OJT研修…年5回	B	B	・OJT教わったことを授業に生かすことができた。 ・講師を担う教員の負担が大きいので、早い時期に講師依頼ができるとよい。	B	OJT研修が5回行われたとのこと、教師による研修等たいへんよいことである。引き続き取り組んでいってほしい。	・講師依頼については、年度当初に行えるのが望ましい。来年度の計画を立てる際に留意していく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・定時退勤日の設定	定時退勤日…月12回	B	B	・半数を超える教員が定時で退勤できている反面、意識せず残業してしまう教員も若干名いた。 ・定時退勤日についてはもっと周知、推進していく必要がある。	A	学校に來校すると先生たちの笑顔がたくさん見られるように感じる。ぜひ、「学校における働き方改革プラン」にこれからも積極的に取り組んで行ってほしい。	・見直しをもって仕事を進め、定時で退勤できるように、教員同士で声を掛け合っていく。
	小中連携教育の推進	・「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携プログラム」による連携の備え	・中学校とのふれあいコンサート ・初任者研修における教員間の交流	全教員が連携プログラムを理解し実施 研修における交流	B	B	・感染症により2年間行えなかった葛西第二中とのふれあいコンサートや、部活動体験などを実施することができた。	A	葛西第二中学校とのふれあいコンサートはぜひ、来年も続けていって欲しい。学校公開中に、中学校とのふれあいコンサートが開催できたことは、大変良かった。小中連携としてよい取組になったと思う。	・3学期の本校での授業公開に向けて、よりよい連携が行えるよう、計画・準備に取り組んでいく。